

子育て環境の充実



子育て支援センターに集う親子

日本の多くの自治体では、人口減少、少子高齢化が進み大きな社会問題となっており、久慈市も例外ではありません。将来を担う子どもたちにとって、より住みやすい環境となるよう、そして子供を産み育てる若い世代が子育てをしやすいように、市では多くの事業を進めています。

保育料の軽減

市では保育料全般を国の基準より低く設定しています。(71・5%軽減)また、平成27年度から子育て世帯の負担軽減のため、市の事業として世帯内第3子以降の保育料の無料化を行いました。平成28年度からは、国の政策として年収約360万円未満相当世帯の場合、子どもの年齢制限無く第2子は半額、第3子

INTERVIEW



おとしたみかこ 大下美香子さん

小久慈保育園に三女を預けています。四人姉弟で上の子は中学生。子供の養育費は結構かかるので保育料の無料はすごく助かります。自分も働いているので保育園に預けないと仕事に行けなくなってしまふ。顔なじみの先生も多く、安心してお願いしています。

インフルエンザ予防接種

平成27年から未就学児のイ

以降は無料となりましたが、これ以外の世帯の第3子については、市で保育料を軽減しています。

医療費助成拡充

平成26年10月から医療費助成の対象を従来の小学生から中学生までに拡大。平成27年8月から小学生の入院時の医療費助成について従来の2分の1から全額給付へ拡大しました。また、平成28年8月から乳幼児と妊産婦の医療費助成について、受給者が費用の全額を一度支払い、その後申請して給付を受ける「償還払い方式」から「現物支給方式」へ改善しました。(医療費助成には所得制限があります)

授乳スペースの普及

平成28年度から、やませ土風館と子育て支援センターに授乳イス、おむつ交換台、貸出ペビーカーを配置。イベント貸出用の「赤ちゃんの駅」(アクト、授乳イス、おむつ交換台)やペビーカーを整備し、市内の各種イベントで使用しています。

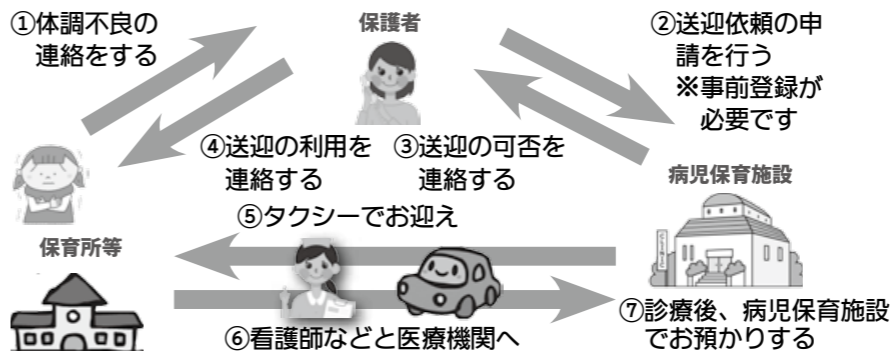
病児保育の充実

平成26年10月から、子どもが病気の際に保護者が働いて



元気に遊ぶ小久慈保育園児

いるなど、家庭での保育が困難な場合に一時的に保育を行う「病児保育室そらまめ」を市内クリニックが開設。平成29年10月からは、保育園や幼稚園などで保育中に体調を崩した児童を保護者からの要請により送迎し、保護者が迎えに来るまでの間、一時的に保育を行う送迎事業を実施しています。



認定こども園の整備

現代は女性の社会進出や就労形態の多様化などにより、保育施設の需要が増加。待機児童解消や多様な教育・保育ニーズに対応するため、認定こども園の普及が図られています。平成28年4月に久慈幼稚園が認定こども園に移行。平成29年4月には川貫保育園が移行し、平成30年度には待浜保育園が認定こども園への移行を予定しています。

学童保育所の整備

共働きなどで日中に保護者が家庭にいない小学生の健全な育成を図るため、学童保育所(放課後児童クラブ)の整備も進めています。

平成26年7月に宇部学童さくらクラブ、平成29年4月に長内学童保育所第2わんぱくクラブ、大川目学童根っこクラブが新たに開設。また、手狭になっていた小久慈学童た

笑顔日本一のまち

若者が住みやすいまちは、みんなが住みやすいまち。全国の自治体で人口減少・少子高齢化が問題となっています。解決には皆さんの協力が不可欠です。未来を担う子どもたちに誇れる笑顔日本一のまちをみんなで達成しましょう。



4月に開設した「くじあさひ認定こども園」



大川目学童根っこクラブで遊ぶ児童



長内学童保育所第2わんぱくクラブ

保育施設・子育て支援施設の整備